

勘定口1号墳 現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成24年5月19日（土）

場所：岡山市東区瀬戸町塩納

はじめに

岡山市教育委員会では、美作岡山道路建設に伴い、勘定口1号墳の発掘調査を、平成24年2月末から実施しています。

勘定口1号墳は、大森山の南山裾部分、大森山と龍王山に挟まれた谷の出口付近に位置しています。南側には、勘定口2号墳があり、山陽自動車道建設に伴い岡山県教育委員会によって調査が行われています（現在は消滅）。

調査前の勘定口1号墳は、墳丘部分は後世の開墾により大きく削り取られ、また石室部分も天井石が失われ、内部に土砂が流れ込んだ状態でした。そのため大幅に破壊されているものと思われました。

しかし調査の結果、石室内部から須恵器や土師器、装身具である耳環などたくさんの遺物が見つかり、石室も想定していたよりも規模の大きな横穴式石室であることがわかりました。

また勘定口1号墳の北東部からは、小さな横穴式石室を持つ「勘定口3号墳」も新たに発見されました。



勘定口1号墳周辺部の遺跡



勘定口1・3号墳の位置

勘定口1号墳の概要

勘定口1号墳は古墳時代の終わり頃（6世紀後半）に造られ、7世紀初頭まで追葬が認められる、直径約12mの横穴式石室を持つ円墳です。

石室は幅約1.8m、高さ約2.2m、奥壁から約7mが残る、無袖の横穴式石室で、その規模は瀬戸町内で最大級のものです。古代末から中世にかく乱を受け、その後すべての天井石が失われ、石室の上部を残して埋没したようです。

墳丘は、大きく破壊されていましたが、ほとんどが盛り土で築造され、その上部は崩落を防ぐために石列が施されていたことがわかりました。墳丘の周りには幅約1.5mの周溝が巡っています。

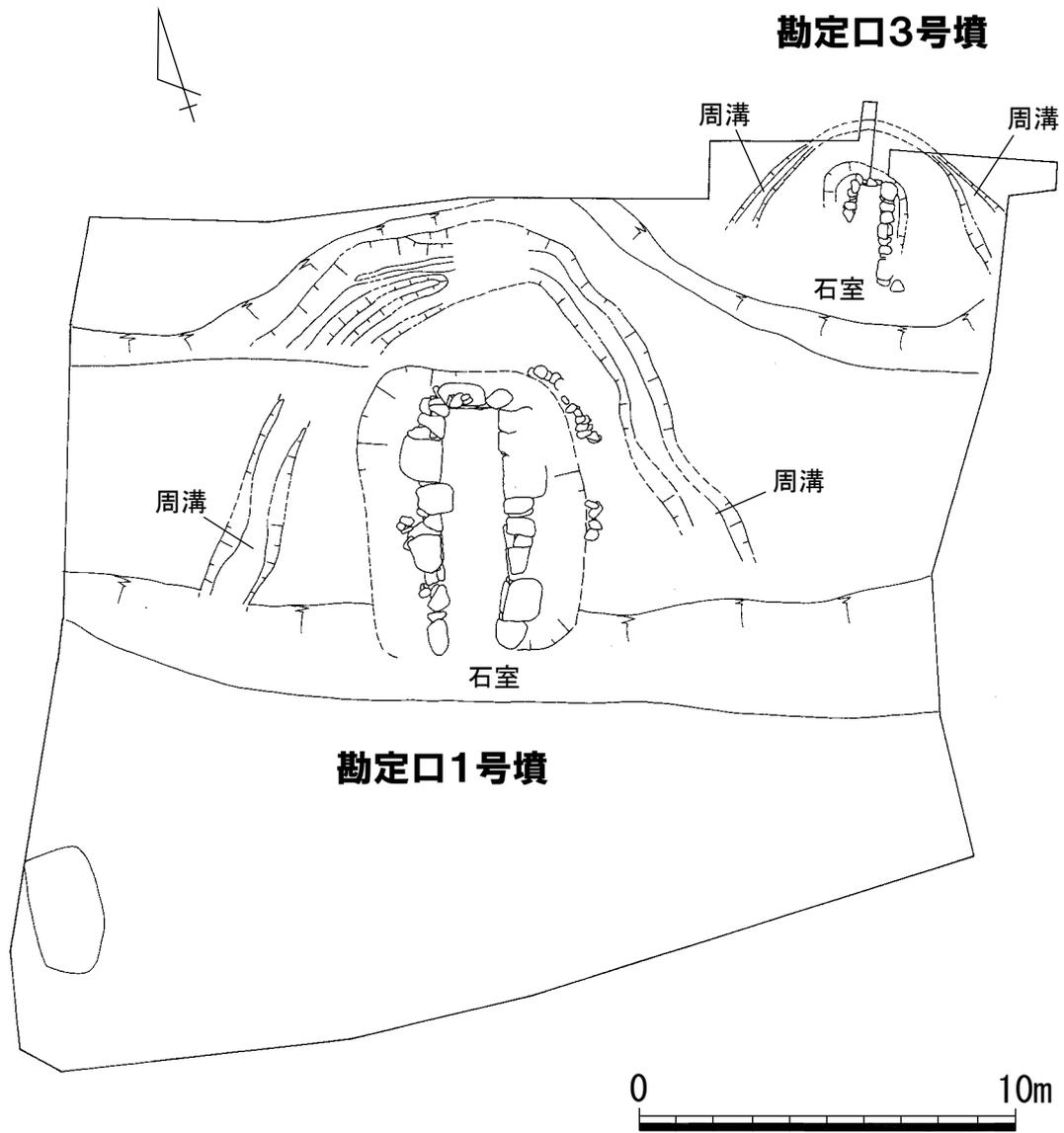
石室内からは、たくさんの須恵器や土師器、鉄器や耳環などの副葬品が、奥壁側から中央部にかけて見つかりました。さらに玄門付近にわずかに残る閉塞石の東側から、葬送儀礼の道具と思われる土師器の甑や甕が見つかりました。

勘定口1号墳はその規模から、前面に広がる万富平野を掌握する首長層の墓である可能性があり、南東にある吉岡廃寺の造営者との関係も考えられます。

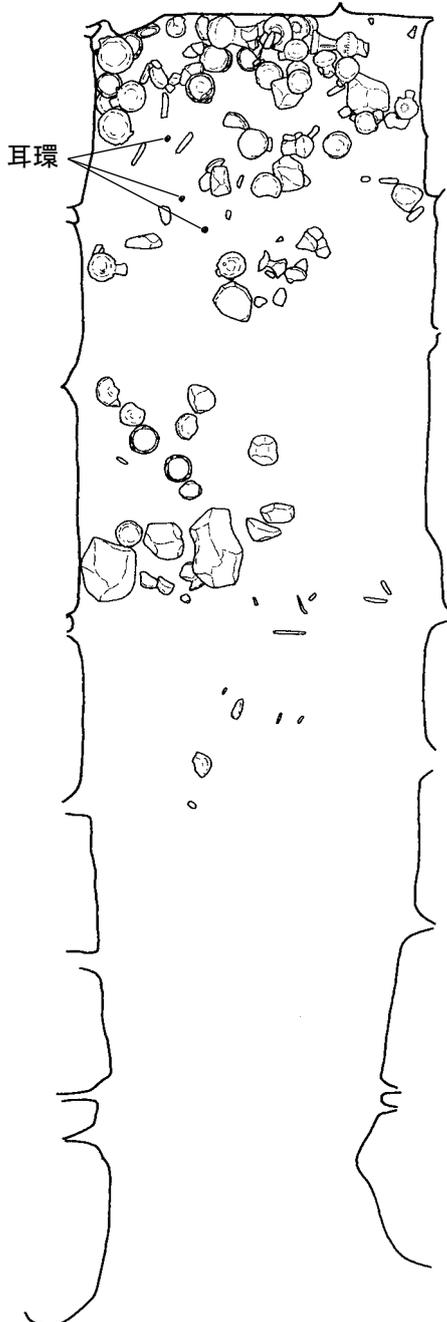
勘定口3号墳の概要

勘定口3号墳は墳丘や石室がほとんど破壊されていましたが、直径約7mの、幅80cmほどの石室を持つ円墳と考えられます。

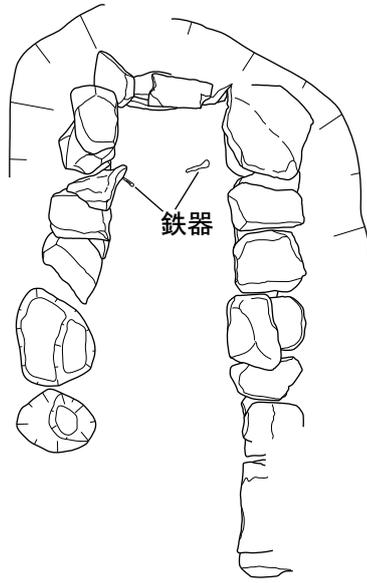
石室内からは2点の鉄器しか出土しませんでした。石室下方の斜面に堆積した流土の中から、7世紀前半頃の須恵器片が十数点見つかりました。



勘定口1・3号墳 平面図



勘定口1号墳 石室内部の遺物



勘定口3号墳 石室内部の遺物